

一 対象 高校生

二 主題名 命の尊さと人間としての在り方生き方

三 ねらい

生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重するとともに、より深く自己をみつめ、人間としての在り方生き方の自覚を深める。

四 発達の段階と資料の特質

○ 高校生は、豊かな感受性や人格の形成がなされる時期であるとともに、より道徳的価値の自覚が促される時期でもある。このような発達の段階を考慮し、自他の命や生きとし生けるすべての命を重んずる態度や、人間としての在り方生き方について深く考える態度を育成したい。

○ 本資料は、農業高校に通う高校生が、口蹄疫の影響で落ち込んだりするが、様々な人の励ましなどをバネに立ち直り、自分の在り方生き方を見つけていくという内容である。主人公が、家畜の命や周囲の人々との関わりの中で成長していく姿を読み取ったり、話し合ったりする活動を通し、命の尊さや人間としての在り方生き方について深く考えさせることができる。

五 展開例

- 1 「宮崎牛日本一」全国和牛能力共進会「三連覇」の記事を読み、口蹄疫からの復興の思いを話し合う。
- 2 「農業高校生奮闘記」を読んで、話し合う。
- (1) 口蹄疫に感染し、処分された家畜たちのことを思うケンシンはどんな気持ちでしょう。
- (2) 佐藤社長から雌牛をプレゼントされたとき、ケンシンはどんな思いをもったでしょう。
- (3) ケンシンが、勉強に身が入るようになった理由は何でしょう。
- 3 これまでに、命の尊さについて感じたことがある経験について出し合って話し合う。
- 4 教師自信が命の尊さについて深く考えさせられたことについての説話を聞く。

六 指導上の留意点

- 状況に応じて、口蹄疫被害の大きさを実感できるデータや写真を活用する。
- 主人公が命に触れる出来事によって得られた成長について共感させ、自らの生き方についても考えさせるようにしたい。

七 参考資料等

- 「高鍋農業高校 生徒作文」や復興に携わった方々の声を参考に、ストーリーを構成した。